

## 全国知事会議記者会見

○日 時：平成19年7月13日(金)10:45～11:15

○場 所：「ホテル日航熊本」5階「天草」

○出席者：麻生全国知事会会長、潮谷熊本県知事、山田京都府知事（地方分権推進特別委員会委員長）中川全国知事会事務総長

### 【概 要】

（麻生全国知事会会長）

この度、熊本で全国知事会議を開催させて頂いた。開催地の潮谷知事はじめ熊本県の皆さんに、準備万端、心のこもった会議開催のための努力をして頂いた。おかげさまで、たいへん和やかで行き届いた会議ができた。まず、何よりも熊本県の皆さんに、このようなすばらしい会議の開催に至ったご努力に対し、心から感謝申しあげる。

また、熊本城の見学や地元の太鼓、高校生の皆さんの踊りをみせて頂いた。すばらしい熊本城、これがまた一段とりっぱな熊本城として復元されつつあることがわかり、熊本城中心に、一層魅力のある熊本づくりが進んでいる状況であった。このような新しい取り組みの中で、ますます熊本県が繁栄されることを心から祈念申しあげる。

今日の全国知事会議の一番大きな目標は、丹羽委員長のもと活発に活動している地方分権改革推進委員会に対し、第二期分権改革に向けての提言をまとめ上げることであった。

これは、いろんな議論があったが、全体としては『第二期地方分権改革』への提言』として要旨をまとめ上げることができた。知事会として共通の基盤をつくりあげることができ、今後、主張していくベースができた。その意味で大きな前進であった知事会議であると思う。提言の内容は、1番目に税財政問題、2番目に国の過剰関与、権限の移譲、3番目に国の地方支分部局の廃止・縮小と統合、そして地方への思い切った移管。こういう大きくは3つの分野であった。

2、3番目の分野は、知事会のなかで特別のスタッフをつくり検討してきたところであり、具体的な事例をあげた形で討議をした。

これについても、完全に一致した形で我々は分権委員会に具体的な課題を提起できるようになった。

また、地方支分部局の廃止・縮小、整理、地方への移管問題についても、その基

本的な考え方と具体的な中身について提案できることになった。その際に、非常に大きな問題になる可能性がある公務員の引き取りの問題についても、権限と財源がきっちり移譲されることを前提に、我々としては一定の方向を出すことができた。国と地方の二重行政、そのもっとも大きなものが国の出先機関と我々都道府県の事業の二重問題であったが、この解消に向け大きな前進をすることができたと思っている。

税財源の問題については、税制小委員長の富山県の石井知事からいろんなシミュレーションが出された。偏在問題を中心に実際にどのような効果が生じるのか、それを解消するためには何が必要かということについて極めて実証的な観点からの分析が提示され、これを大きな検討資料として議論を行った。

その議論において、特に三位一体の二の舞をしないようにしないといけないという意識が非常に強かった。

そして、また実際に、税源移譲、財政改革をやるにあたっての偏在問題、これが非常に大きな問題であり、今後、これに徹底的に取り組まなければいけない点について合意することができ、また、格差調整にあたっての交付税制度の有効な活用、効果的な制度の改善、これが非常に大事であるということで、それについても方向性を示すということができた。

税財源の問題について、これまでよりはるかに踏み込んだ形での議論が行われ、また、基本的な方針についての合意ができたという意味で一つの大きな成果であり、今後の我々の活動について大きな力になり主張を明確にできるという意味で前進であったと考えている。

(潮谷熊本県知事)

まずは、第二期地方分権改革のスタートに当たり、この熊本の知事会議で本当に素晴らしい論議になったということで関係者の皆様方にお礼を申しあげたい。

11日の朝まで降り続いた雨が奇跡的にやみ、皆様方にお集まりいただくことができたことは本当に素晴らしかった。そういう印象を持っている。

地方開催としては、過去最高の44名の知事御本人の出席があり、真の分権社会を求めていかなければならない。それも住民側に立つという視点からの論議が行われた。

今日、お集まりの記者の皆様方も実感して頂いたように、昨晚10時過ぎまで終始熱心に討議が行われたということは、私ども開催県としても、とても記念すべきことだと思っている。

いろいろな方々から、この度の会議の運営について高い評価をいただいた。この

背景には、熊本のボランティアの方々のお力と県の職員が、本当に心を込めて頑張っていて下さった成果が、それぞれの知事の心に響いたのではないかと考えている。

「これからの分権と自治を語る」というテーマでシンポジウムを11日に行ったが、シンポジウムを通して、県民の皆様方に道州制あるいは分権、これは自分たちの生活とどのように関わりをもっているのかということを考える一つのきっかけにさせていただきたいという思いがあり、そういった意味でも500名近い方々にお集まりいただくことができたということは、非常に喜ばしい結果だと思っている。

熊本市の御協力により復元中の熊本城本丸御殿に知事さん方をご案内することができた。予定外であったが、知事さん方の多くに天守閣まで登っていただき、熊本の歴史、文化にふれていただいた。

一方会場のなかでは、農業県熊本、そして水の国熊本こういったものを体感していただいたことで、熊本の産業ということにも触れて頂いたのではないかと考えている。

この記者会見が終了した後に、全国知事会議熊本開催と、熊本城築城400年を記念して、全国知事会会長の麻生知事、地元熊本市の幸山市長、私の3人で記念植樹をさせていただきたいと思っている。

この桜の成長と合わせて、地方の一致団結した動きが大きな幹に成長し、やがて真の地方分権、これが豊かに実るよという願いをこめての植樹です。

皆様方、いろいろありがとうございました。

(山田京都府知事)

今回、無事に提言をとりまとめることができた。昨日も大変熱心な議論をして頂いたが、多くの知事さんが最後までまわって頂き、感謝している。

提言の内容についてもだいたい想定の範囲内で、収まったという感じがしている。私としては5：5、6兆円ということを明記できたことは大変成果だと思っているし、水平と垂直の問題について、ある程度、都市と地方間に合意ができたということは大きな成果だと思っている。

また、事務、権限移譲、関与、地方支分部局については、今回かなり詳細なものを出すことができたので、これからの二期改革を進める上で戦う橋頭堡を確保できたと思っている。

問題点としては、皆さんからみて、税源移譲の具体的な中身について、今回様子見という形になっているので、その点があいまいだという印象を受けられたのではないかと思う。

これは、三位一体改革の戦いを通じて、知事会もやたら突撃するのではなくて、

相手の状況を見定めながら、これからの戦いの方針を決めていこうということなので、今まで学んだ点を活かしたという点では、ある面では皆さんの総意はそこにあつたのではないかと思っている。

その点について、これからいよいよ詰めていく段階では議論が出てくると思うが、今回についてはそういった点でまとめることが出来たということは大きな成果だと思っている。

(記者)

会長に伺いたい。

全般に都市部と地方の内面的な葛藤も現れていたと思うが、どのようにお考えか。実際問題、東京都知事の場合は、昨日午後から来て、オリンピックの全国的な知事会のとりのまとめを要望し、今日もお帰りにはなっているが、そういった形のものとはわりと地方の場合は、結局、都市部がいい思っているのではないかというものにもつながっているという感じを持つこともあると思うが、そういうこと含めて、さっきの山田知事の水平調整のことも言われたが、実際、どのようにお考えか。

(麻生全国知事会会長)

都市部は都市部でいろんな意見を持っているし、地方は地方でいろんな意見があつた。

特に今回の場合には、新しい知事であるが鳥取、島根からは、それぞれの実態に則した状況についての報告あり、またそれに則した意見もあつた。

地方側と都市部がそんなに対立したかということとそんなに対立をしたという訳ではなく、いろんな議論があつたが、偏在の問題を何とかいろんな制度的な工夫、あるいは交付税を使うというやり方で解決をしていく、緩和をしていくということが非常に大事であるという共通の認識が明確に形成されたと思っている。

都市部の方にいいようにやられたということでは決してない会議であつたと思う。

(記者)

実際問題、例えば、熊本市も州都という形で打ち出されている。九州は福岡だと思っていたが、そういった地域間競争はこれからも残ると思うが、そういうことも含めて知事会自身もまとまっていけるという自信のほどは。

(麻生全国知事会会長)

それは、今日、昨日、会議をみていただければ分かるが、当然、まとまっていけ

るし、また、まとまっていかなければいけないと思う。

(記者)

山田知事に伺う。

この提言は、いつ国に出すのかということと、詰めていく段階で議論がでてくるということだが、いつまでに中身について詰めていくのか、お聞かせ頂きたい。

(山田京都府知事)

提言については、割と早い段階に、特に地方分権改革推進委員会の方に知事会の考え方はこうだということで、お伝えをしていきたいと思っている。

そして、それを踏まえた形で関係の所にも、この提言については配付させていただきたいと思っている。

具体的な進め方は、まさに今回の知事会でも一番議論になったように、相手の出方、どの程度まで向こうがきちっとしたものを考えてくるのか、それに応じて柔軟に対応していこうではないかと。こちらが先にでてしまって、走って行ったらそこに落とし穴があるのでは困るので、それはこれから地方分権改革推進委員会の検討状況、それから国のいろいろな動きを見ながら考えていきたいと思っている。

今の段階でこういうふうはこちらが動くということではなく、こちらはプロジェクトチームを中心に構えはしっかりし、検討はしっかりして、いつでも柔軟に動けるという体制をとっていくのが、今回のスタートと思う。

(記者)

実際問題、47都道府県の知事のうち20数人の知事の方が、総務省をはじめ国の省庁の出身の知事がいるが、地方支分部局の廃止と職員の移管だが、ご自分の出先の部分の省庁の絡みもあると思うが、住民の目線からいうと、その辺徹底してできるのかという疑問は抱きがちだが、どう考えるか。

(麻生全国知事会会長)

徹底してできる。

別に役人出身だからといって、いろいろできないということではない。我々は、地方分権あるいは国全体としての、より効果的な行政手法を実現したいと。そのために必要な改革を求めているわけで、昔、なんとか省出身だからできないということでは決してない。

(記者)

会長に伺いたい。

今回の会議では、道州制に関する議論はあまりなく、分権の改革の提言があったので仕方ないと思うが、今日のなかでは年末にある程度の意見をとりまとめるという話があったと思うが、この問題に関しては、自民党も政府もある程度、議論を始めているが、今回のマニフェストにも書かれている部分もあるが、知事会としては、ある程度のタイムスケジュール等、今後どのような形で進めていこうと思っているのか、九州のことも踏まえてお考えを伺いたい。

(麻生全国知事会会長)

我々は、自民党の道州制調査会、政府の道州制ビジョン懇談会の動きと知事会の道州制特別委員会の3つの動きが、今の道州制のもっとも重要な活動主体であると認識している。

私どもは、一方では他の2つの活動を見ているが、一方では今年の1月に基本的な考え方を共通認識として確立し、その共通認識の下で、いろんな具体的な税制の問題あるいはいろんな道州の組織の問題等々、重要な要素についての検討を進めている状況である。

この重要な要素の検討をしながら、それぞれの他の2つの主体に対しては我々の立場あるいはチェックということをやっていく。

その際にもっとも重要な点は、道州制は地方分権を実現するものでなければいけないという観点を中心としながら必要な意見を述べていき、また提案をしていくとの考え方でやってまいる。

九州の場合には、九州地域戦略会議、これは九州地方知事会と経済界が一体となってやっているが、そこで昨年、道州制の基本的な考え方をとりまとめ、道州制が必要であるという基本認識を確立した。

今は、その基本認識の下で、具体的に九州で道州制を考えた場合のモデルの検討に着手しているが、これは2年かけてやる予定である。非常に活発な議論をやっている最中である。

(記者)

第二期分権改革に向けた提言について、三位一体の反省もあると思うが、国庫補助負担金の金額がなくなったり、地方間の偏在是正の具体策について、もともとの共通財源の案が検討するとトーンダウンしたし、山田知事が東京や大阪の知事さんに対して、偏在是正策を具体的に示してくれということもなかったと思うが、そうい

う点からすると、最初の案からすると後退したようにも思えるが、そういうところで、国、国民に向けて、知事会として、三位一体の件もあり、地方分権について弱気になっている、足並みが乱れているというふうにとられかねないと思うが、その辺どうお考えか。というのが1点。

あと、今回、消費税の税率上げてはどうかという意見、かなり出たが、それについて知事会としてどのように対応していくのか。

(山田京都府知事)

1点目、案文は、問題をしっかり提起していこうということで書かせて頂いたので、若干、過激的な表現も使わせて頂いた。

新しい制度について検討していくということを都市圏、地方圏の間に合意をした。首都圏からも対案が出されず、今回の合意に至ったのかなと思っている。

それから、足並みがそろっていないのではということだが、逆にいうと足並みは揃った。どういうふうに揃ったかという、移譲財源について、今、補助金の具体的なものを提示すると逆にとられる恐れがある。

それについて、税源移譲を本当に積極的にやっていこうという人とあまり積極的でない人と両方いると思う。その点では、足並みは揃ったというふうに思っている。乱れたということではない。

しかしながら、今後に進めていくうえでは、そうした問題が出てくるのはやむを得ないと思っている。というのは、三位一体改革の時でもあれだけ議論になった。そしてその時のなかで、実は残ったものは、一番合意の得にくいものが残っている。

例えば、社会保障の問題、公共事業、それだけに、そういったものを詰めていく過程では、さらに本当に熱心に議論をしていくことが求められていると思っている。

その点は、やはり知事会としてのこれから、対応というか見識を問われる事態が私は来ると思っている。

そこを私どもとしては、できれば逃げずに皆さんの前で、積極的な議論を展開することによって、分権にかける知事会の姿勢というものを明確に出していけたらいいと個人的には思っている。

(麻生全国知事会会長)

消費税問題については、石原さんが挑発的な発言をされた。

ああいう発言はあったが、知事会が今の段階で、消費税増税について先頭を切つて旗をふるのが適切かどうかということについては、よほど慎重に考えなくてはならないと思っている。

財政再建ということが国、地方通じての大きな課題であり、これをどういうふう  
に成し遂げるかという場合に、消費税増税が不可欠ではないかという議論があるの  
は充分承知しているし、また、仮に引き上げられた場合には、我々も行政需要、特  
に福祉関係の財政需要から見ると、非常に重要な視点になってくるとは思っている  
が。

石原さんが言われるような形での、先頭を切るということは慎重である。

(記 者)

会長にお尋ねする。

今回の二期改革の提言のなかで、プロジェクトチームや小委員会でかなり積み上  
げた議論があったにもかかわらず、知事会議で、その議論を何年もまえに先戻すよ  
うな発言も出るなかで、これから具体的に難しい合意形成をしていくなかで、こ  
ういう知事会の議論の在り方を、これからも続けられる方針かどうか。

(麻生全国知事会会長)

これからも続けていく。

我々の会議の性格からみて、ああいうやり方以外に合意の形成、うまい方法は見  
あたらない。

やはり、非常にオープンな形で意見を出して、その中から集約をしていくとい  
う今のやり方をとっていく。

—以 上—